

法学部A方式Ⅱ日程・国際文化学部A方式  
キャリアデザイン学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～32
世 界 史	34～51	地 理	52～65
数 学	66～68		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学については以下の注意事項も参照すること。
  - ・解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
  - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

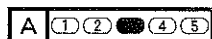
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

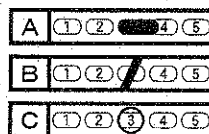
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

19世紀プロイセンの国制改革者として有名なシュタインは、もともとプロイセンの出身ではなく、西ライン地方ナッサウの出身である。彼は1780年にはじめてプロイセンで公職につくが、彼自身、当時のプロイセンと同国君主の開明的な雰囲気にはかれるところがあったという。シュタインは1807年に首席大臣に就任し、彼を中心にして、プロイセンの近代化改革が始まる。シュタインは改革の目的を、「公共精神と市民意識の振興。眠りこみ、もしくは誤って導かれている民力、また散在している知識の活用。国民の精神、その意見や欲求と、国家官庁のそれとの調和。祖国、自主独立また国民的な誇りに対する感情の蘇生」に置いている。ここにはナポレオンによるドイツ支配により強く意識された近代化の必要とナシ  
(1) ョナリズムがその基軸に据えられていることがわかる。

多様な分野にまたがるプロイセン改革はこうした環境のなかではじまったもの  
(2) であり、上述のシュタインの『覚書』にもそれがよく現れている。プロイセンに招かれ、当地で行政をはじめとする改革に着手したシュタインは、行政機構の近代化とともに、その都市令にみられるような分権的改革を推進しようとした。シュタインがその地位にあったのは一年ほどで、実際に在職中に彼の計画が完成したわけではない。シュタインは、反フランス的との理由で、その地位を追われ、オーストリアを経てロシアに亡命することになる。

シュタインは亡命先ロシアで1813年に反ナポレオンのためプロイセン・ロシア  
(3) 同盟の成立に寄与した。ナポレオンの敗北後、ヨーロッパでは復古的な動きが強まり、ウィーン会議により君主制連合の体制がしかれることになる。シュタイン  
(4) はこの会議にロシア政府顧問として出席し、統一ドイツの実現をめざしたが、メ  
(5) ッテルニヒにより妨げられ、その後政界を退いた。

- 問1 下線部(1)に関して、プロイセンがフランスに決定的な敗北を喫した戦いの場所はどこか、その地名の一つを語群Aより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- 問2 問1の敗北の結果結ばれたティルジット条約により、それまで三度にわたって分割されていたポーランドにワルシャワ大公国がつけられた。第二次のポーランド分割に関わった人物を語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- 問3 下線部(2)の改革につき、軍制改革の中心となった人物を語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- 問4 シュタインを受け入れた下線部(3)の皇帝は誰か。語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- 問5 下線部(4)による領土の変更にかんする以下の説明のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- a ロンバルディア・ヴェネツィアは、イタリアに復帰した。
  - b ワルシャワ大公国が解体され、ポーランド立憲王国建国により、他国による支配を脱した統一国家となった。
  - c イギリスは、セイロン島、マルタ島、ケープ植民地をオランダから獲得した。
  - d ルイ18世の外相タレーランは、正統主義を主張し、フランスの旧領土の保全に成功した。

問6 下線部(4)により成立した同盟や連邦について、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ドイツ諸領邦国家と自由都市は、1815年9月にドイツ連邦を結成した。ドイツ連邦はビスマルクが登場し、プロイセンがその盟主となるまで、オーストリアが議長国を務めた。
- b 1815年9月にキリスト教の友愛精神に基づいて平和維持のため神聖同盟が成立した。この同盟には、オスマン帝国とローマ教皇を除く、すべてのヨーロッパ君主が参加した。
- c 四国同盟は1815年11月にイギリス・ロシア・オーストリア・プロイセン間で革命運動への武力干渉を約し締結された。
- d 1818年、四国同盟はフランスを加えて五国同盟となった。1822年にスペイン革命に出兵しようとしたイギリスにフランスが反対し、同盟は崩壊した。

問7 下線部(5)に関係するナショナリズムや立憲主義の動きについて、以下の文章を読んで問いに答えよ。

ドイツにおけるナショナリズムの運動は知識人や学生のなかにも現れた。

『ドイツ国民に告ぐ』と題された有名な講演はその代表的なものである。だが、<sup>(ア)</sup>民族主義的な学生集団の集会などは、ウィーン体制の政治基盤とは対立するものとして危険視され、<sup>(イ)</sup>メッテルニヒラ<sup>(ロ)</sup>体制側はこうした運動や集会を抑圧した。

ヨーロッパ諸国における体制の動揺と、ラテンアメリカにおけるナショナリズムの動きも結びついている。<sup>(ニ)</sup>ハイチでもフランス革命の影響で、1791年に黒人奴隷の反乱が起こり、独立運動に発展した。ハイチは1798年には進入したイギリス軍を、その後ナポレオン軍を撃退し、1804年に独立を宣言した。<sup>(ホ)</sup>ウィーン体制は、ラテンアメリカの独立運動に対しても抑圧を企てた。フランスは1825年になって<sup>(カ)</sup>ハイチの独立を承認した。一方、フランス国内では、<sup>(キ)</sup>反動的な王制を復活させていた王が、国内政治に対する不満をそらすために、<sup>(ク)</sup>新たな侵略戦争を企てた。

- ① 下線部(ア)の講演を行った人物は誰か。語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ② 下線部(イ)の弾圧に関わる決議が行われた場所の地名を語群Aより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ③ 下線部(ウ)に関して、ドイツ以外の国でもウィーン体制に反対する、ナショナリズムや立憲主義をかかげる革命や、結社の蜂起が起こった。これに関連する以下の説明のうち正しいものにはaを、間違っているものにはbを、それぞれ解答欄にマークせよ。
- イ) ロシアでは、ナポレオン戦争に従軍した青年将校たちが、専制廃止・立憲制を求めて秘密結社を結成し、1825年に武装蜂起した。この蜂起をデカブリストの乱という。
- ロ) スペインでは、ナポレオン退位後のオルレアン家に対する1820年の反乱により、憲法を復活させる立憲革命が起こったが、フランス軍の介入により1823年に挫折した。
- ハ) イタリアでは、カルボナリがイタリアの独立と統一を求めて結成され、立憲自由主義運動を展開した。1820年ナポリなどでの反乱を成功させたが、翌年フランス軍に弾圧された。
- ニ) オスマン帝国支配下のギリシアで、1821年に独立軍が蜂起し、翌年独立宣言を行った。その後、西欧諸国からの義勇軍や東地中海進出をはかるロシア・イギリス・フランスの介入があり、ロンドン会議において独立が承認された。
- ④ 下線部(エ)の国を、フランス領になる1697年まで統治していた国はどこか。語群Bより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ⑤ 下線部(オ)の独立運動の指導者は誰か。語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ⑥ 下線部(カ)について、これに反対して、自国の商品市場拡大のため、ラテンアメリカ諸国の独立を支援した人物を、語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ⑦ 下線部(ク)をフランスが承認した翌年、ラテンアメリカの独立と連帯のた

めにパナマ会議が開催された。この会議を提唱した人物は誰か。語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

⑧ 下線部(キ)のフランス王は誰か。語群Cより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

⑨ ⑧の人物が侵略した国はどこか。語群Bより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

⑩ ⑧の人物のとった政策の内容として、正しいものにはa、誤っているものにはbを、それぞれ解答欄にマークせよ。

イ) 亡命貴族に多額の補償金を認めた。

ロ) 国民軍により、言論・出版を厳しく統制した。

ハ) 社会主義勢力が伸張した議会を解散した。

ニ) 地主以外の有権者から選挙権を剥奪した。

#### 語群A

1 アウステルリッツ

2 アドリアノーブル

3 アミアン

4 イエナ

5 カールスバート

6 カンポ＝フォルミオ

7 ストラスブール

8 ブランデンブルク

9 プレスブルク

10 プレーメン

11 リュネヴィル

12 ロンバルディア

13 ワルトブルク

#### 語群B

1 アメリカ合衆国

2 アルジェリア

3 イギリス

4 ウェストファリア王国

5 ヴェルテンベルク王国

6 コンゴ

7 スペイン

8 バタヴィア共和国

9 バーデン大公国

10 ハノーヴァー王国

11 ボリビア

12 ポルトガル王国

13 モロッコ

語群C

- |    |           |    |               |
|----|-----------|----|---------------|
| 1  | アレクサンドル1世 | 2  | エカチェリーナ2世     |
| 3  | オコンネル     | 4  | カニング          |
| 5  | カール12世    | 6  | サン＝マルティン      |
| 7  | シェリング     | 8  | シモン＝ボリバル      |
| 9  | シャルル10世   | 10 | シャルンホルスト      |
| 11 | シラー       | 12 | トゥサン＝ルヴェルチュール |
| 13 | トゥバク＝アマル  | 14 | ニコライ1世        |
| 15 | ノヴァーリス    | 16 | ハルデンベルク       |
| 17 | ピット       | 18 | ピョートル3世       |
| 19 | フィヒテ      | 20 | ブライト          |
| 21 | フリードリヒ1世  | 22 | フリードリヒ2世(大王)  |
| 23 | フンボルト     | 24 | マリ＝アントワネット    |
| 25 | マリア＝テレジア  | 26 | ルイ16世         |
| 27 | ルイ＝フィリップ  | 28 | ロテック          |

〔Ⅱ〕 つぎのAからCの文章を読み、下記の問いに答えよ。

A. アメリカの南部では、手作業の300倍の作業効率を持つ  の発明などにより、18世紀末から19世紀にかけて綿花栽培が飛躍的に拡大した。綿花は、黒人奴隷労働に依存したプランテーションで生産され、主に木綿工業が発展したイギリスに輸出された。こうした背景から、南部諸州は奴隷制の存続や自由貿易を強く求めた。一方、工業化が進む北部では、イギリスへの対抗上、保護関税政策を主張し、奴隷制については人道主義的立場から、部分的、漸次的に廃止する方向へと動いていた。

奴隷制や貿易政策に関する南部と北部の利害の相違は、アメリカ合衆国の領土拡大と西部開拓によってさらに先鋭化した。1820年のミズーリ協定により、両者の対立は一時おさまったが、 によってミズーリ協定が否定されると、南北の対立は激化した。1860年に、奴隷制度の拡大に反対するリンカンが大統領に当選すると、南部諸州は合衆国から離脱し、南北戦争が始まった。当初南部軍が優勢だったが、北部軍は1865年にリッチモンドを占領し勝利し、合衆国は再び統一された。奴隷は解放されたが、南北戦争後も黒人に対する迫害や差別は続いた。一方、南北戦争後、西部では鉱山と農業の開発が進み、北部においては工業化が進展した。こうした急速で大規模な産業の発展は、19世紀後半のアメリカ社会に様々な影響を及ぼした。

問1 空欄  に入る最も適当な語句を、以下から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ミュール紡績機

イ アークライトの水力紡績機

ウ カートライトの力織機

エ ホイットニーの綿繰り機

オ ジェニー紡績機



問2 下線部(1)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 16世紀から18世紀にかけて、奴隷貿易は主にポルトガルやスペインによって、アフリカ東海岸を基地に展開された。
- イ 中南米のスペイン植民地では、疫病によって激減した白人年季契約奉公者の代わりに、黒人奴隷が使役された。
- ウ 奴隷貿易は、ヨーロッパから運んだ武器や雑貨をアフリカで奴隷と交換し、それをさらに西インド諸島で砂糖などと交換する三角貿易をつうじて行われ、リヴァプールなどの都市が栄えた。
- エ カリブ海地域における、黒人奴隷を使ったプランテーションでの茶と砂糖の生産量が増加したため、イギリスは茶法と砂糖法を制定し、価格調整を図った。

問3 下線部(2)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア フランスは、18世紀半ばから、ブール(ボーア)人を使ったカカオのプランテーション経営をローデシアで展開した。
- イ イギリス東インド会社は、17世紀末にザミンダリー制をスリランカ(セイロン島)に導入し、茶やサトウキビなどのプランテーションを拡大した。
- ウ ポルトガルの植民地ブラジルにおける砂糖プランテーションは、17世紀中頃から、インディオを債務奴隷として労働させるエンコミエンダ制として普及した。
- エ ジャマイカ島では、イギリスが17世紀後半以降、黒人奴隷を使役してサトウキビのプランテーション経営を積極的に展開した。

問4 下線部(3)に関連して、奴隷制の廃止について述べた以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア イギリスでは、グレイ内閣が奴隷解放法を成立させた。

イ フランスは、植民地キューバにおいて黒人奴隷の反乱が独立運動に発展したため、奴隷制廃止の宣言を出した。

ウ ジェーン・オースティンは『アンクル・トムの小屋』を著し、奴隷解放運動を推進した。

エ スペインは、植民地ブラジルでイダルゴの指導のもと独立運動が起こったため、奴隷解放令を出した。

問5 下線部(4)に関連する以下のa～eの五つの出来事について、年代的に古いものから順に並んでいるものをア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a アメリカ＝メキシコ戦争に勝利したアメリカ合衆国は、ニューメキシコとカリフォルニアを獲得した。

b ミシシッピ川以西のルイジアナを、フランスから買収した。

c アラスカをロシアから買収した。

d テキサスがアメリカ合衆国に州として加入した。

e スペイン領フロリダを買収した。

ア e—b—d—c—a

イ a—b—e—c—d

ウ d—a—c—e—b

エ b—e—d—a—c

オ e—a—b—c—d

問6 下線部(5)に関連して、以下の文章のうち誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ジェファソン大統領が制定した強制移住法により、インディアンはミシシッピ川以西に追放された。

イ マニフェスト＝デスティニーは、領土拡大と西部開拓を正当化する言葉として、19世紀中頃から普及した。

ウ 西漸運動の開拓前線であったフロンティアは、1890年頃に消滅した。

エ 19世紀半ばにカリフォルニアで金鉱が発見されたことで始まったゴールドラッシュにより、西部開拓は進展した。

問7 下線部(6)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ミズーリ州では、保護関税政策をとることが定められた。

イ 北緯36度30分以上では、自由貿易を認めないことが定められた。

ウ ミズーリ州は、奴隷州と定められた。

エ アパラチア山脈以西、北緯40度線以北には、奴隷州を認めないことが定められた。

問8 空欄  に入る最も適当な語句を、以下から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 審査法廃止

イ 憲法修正第13条

ウ ローラット法

エ カンザス・ネブラスカ法

オ 北米自由貿易協定

問9 下線部(7)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア アメリカ連合国は、南北戦争の終結により解体した。
- イ リンカンが1862年に布告したホームステッド法は、シェアクロッパー制を崩壊させた。
- ウ 1863年の奴隷解放宣言により、黒人奴隷はアメリカの市民権を得た。
- エ 南北戦争ではスペインが南軍、イギリスとフランスが北軍を支援した。

問10 下線部(8)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1865年に南部で結成された秘密結社K・K・K(クー=クラックス=克蘭)は、1920年代には排外主義を唱えて拡大した。
- イ 南部では、1890年代からアパルトヘイトと呼ばれる人種隔離政策がとられた。
- ウ 南部では1880年代以降、白人を優先し黒人を公職から追放するため白豪主義がとられた。
- エ 1969年、アラバマ州でローザ=ルクセンブルクが人種分離法違反で逮捕されたことに抗議し、キング牧師らが黒人解放運動を開始した。

問11 下線部(9)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 19世紀末には、アメリカはドイツとイギリスを抜き世界一の工業国となり、債務国から債権国になった。
- イ 石油が新しい動力として出現し、ロックフェラーによって設立されたスタンダード石油は、トラスト(企業合同)を展開し独占体を形成した。
- ウ コークス製鉄法の開発により鉄工業が著しく発展し、アメリカからヨーロッパへの鉄材輸出が急速に増大した。
- エ 大陸横断鉄道の完成により西部の開拓が進み、東欧や南欧からの新移民やアジア系移民が、自営農民を夢見て東部から西部へ大量に移住した。

問12 下線部(10)に関連して、以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 新聞やラジオが普及し、映画やプロスポーツが大衆娯楽として発達し、大衆消費社会が出現した。

イ 禁酒法が憲法の修正により成立したが、犯罪組織などの暗躍により、大量のヤミ酒が出回った。

ウ 電灯や電信・電話といった新しい技術が導入され、また蓄音機や映画などの大衆娯楽の技術が発明された。

エ フォード社が大衆車「T型フォード」を開発し、自動車が量産されるようになった。

B. 以下の文章は、南部の弁護士でありプランテーション経営者であったジョージ＝フィッツヒューが、北部の資本主義との対比で南部のプランテーションを擁護した文章である。これを読んで、下の設問に答えよ。

「上手に経営された南部の農場は……フリーエも羨むほど緊密な労働連携のモデルである。母親たちが労働している間、その子どもたちの面倒をひとりの年老いた女性が見る。病んだ人のために特別に建てられた家の中で病人の看護をするのは別の女性である。……それは労働の節約の方法としてすばらしいものであり、社会主義者の良い考えと一致している。」

(ジョージ＝フィッツヒュー『南部社会論』、荒このみ編『史料で読むアメリカ文化史2』東京大学出版会、2005年、266ページ。)

問1 下線部(1)フリーエ(1772-1837)に関する以下の文章のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア アメリカに、理想的協同社会ニューハーモニーを建設した。

イ 小作農がおかれた過酷な状況を改善するため、アナーキズムを提唱した。

ウ 自他共生をめざす理想的農業共同体としてのキブツを建設した。

エ 協同組合的理想社会(ファランジュ)の実現を主張した。

問2 下線部(2)に関連して、以下の文章のうち19世紀に起きた出来事ではないものの一つを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア フェビアン協会が設立された。
- イ ビスマルクにより社会主義者鎮圧法が制定された。
- ウ 第二インターナショナルが結成された。
- エ ドイツでレーテ(労働者と兵士の評議会)が結成された。

C. 西部開発により領土拡大を進めるなか、アメリカ合衆国が打ち出した外交政策に関する以下の文章を読み、下の設問に答えよ。

「われわれは、ヨーロッパ列強自身に関わる問題をめぐる列強間の戦争には決して参加しなかったし、それはわれわれの政策にも合致しない。……神聖同盟列強の政治制度は、本質的にアメリカのそれとは異なっている。……ヨーロッパ列強がその制度をこの半球の何処かに拡大しようとする試み<sup>(1)</sup>はすべて、われわれの平和と安全にとっての危機であるとみなすと明言することは、われわれの義務である。われわれは、現存するヨーロッパ列強の植民地<sup>(2)</sup>や属領には干渉してこなかったし、今後も干渉しない。」

(「ジェームズ＝モンロー大統領の年次教書」, 歴史学研究会編『世界史史料7』岩波書店, 2008年, 364ページ。)

問1 下線部(1)に関連して、以下の文章のうち正しいもの一つを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア フランスはナイジェリアを侵略し、植民地化した。
- イ ウラビー(オラービー)の反乱に干渉したイギリスは、エジプトを軍事支配下においた。
- ウ メッテルニヒらは、ラテンアメリカ諸国の独立運動の弾圧を企てたが、英米の反対により断念した。
- エ イタリアは、アメリカ植民協会が開拓したりベリア独立運動に介入した。

問2 下線部(2)に関連して、ヨーロッパ諸国による植民地獲得と勢力拡大に関する以下の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア カーナティック戦争でフランスに勝利したイギリスは、南インドにおける支配権を確立した。

イ ロシアは、第2次アフガン戦争に勝利し、1880年にアフガニスタンを保護国化した。

ウ イタリアは、1895年にエチオピアに侵入し、保護国化した。

エ フランスは、1856年にドイツと中国に共同出兵してアロー戦争をおこし、広州を占領した。

問3 南北戦争終結後のアメリカの対外政策に関する以下の文章のうち、正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア アメリカ=スペイン戦争でアメリカが勝利したことにより、メキシコのディアス政権は崩壊し、キューバ、フィリピン、プエルトリコはアメリカに割譲された。

イ 国務長官ジョン=ヘイは門戸開放宣言を出し、アメリカは列強の中国分割には参加しないこと、また列強と中国の間に結ばれた不平等条約の撤廃にもとづく機会均等を主張するなど、反帝国主義政策を採った。

ウ アメリカはモンロー大統領以来の「栄光ある孤立」政策を放棄し、太平洋地域に進出し、ハワイ、フィジー、グアム、ニューギニア東部を保護領とした。

エ アメリカ=スペイン戦争の後に成立したフィリピン革命政府と、フィリピンの独立を認めないアメリカとの間で、フィリピン=アメリカ戦争が起こり、勝利したアメリカがスペインにかわりフィリピンを領有した。

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

フビライはモンゴル帝国の第4代皇帝モンケ＝ハンの弟であった。彼はモンケの命により南宋征服のための軍を率いて長く中国の地にあった。この間、彼は燕京を拠点としていた。この地はかつて金の都が置かれ、中都と呼ばれた所である。フビライに南宋攻撃を急がせ、自身も遠征の途に上ったモンケが、四川の地で病没すると、モンゴル皇帝の後継をめぐるフビライと末弟のアリクブケとの間で帝国を二分する争いが起こった。フビライは燕京(のちの大都)と開平(のちの上都)を拠点とし、アリクブケはカラコルムを拠点としていた。この争いはフビライ側の勝利に終わり、フビライは名実共に第5代皇帝の地位を確立した。彼はやがて中国風に国号を建て元と称した。したがって元朝初代の皇帝はフビライであり、以後、元朝の皇帝はすべてフビライの子孫である。都は大都と上都との二つである。そしてこの二都の間を季節によって移動した。これは年間を通して一箇所に定住しないという遊牧民の伝統を反映したものとされる。一方、モンゴル帝国の元朝支配領域以外の地は4つの汗国(ウルス)に分割され、元朝に対してある程度の独立を保つようになった。フビライは引き続き南宋を攻め、1279年杭州の陥落(接收)によって南宋は事実上滅んだ。旧南宋支配下にあった住民は元朝による種族別支配の中で A 人と呼ばれ、厳しい支配が行われたが、南宋時代の文化はある程度尊重された。その一例が朱子学である。フビライは大都に朱子学者を招いて講義をさせた。

フビライは大都をユーラシア大陸の陸上交通網と海上交通網との結節点として造営する構想を持っていた。現在の北京にある幾つかの人造湖はその名残と言われる。また、華中華南の豊かな物産を華北の政治的中心地に運ぶ営みである漕運には、大運河を改造して利用する計画があったが、当時の技術力の限界により、順調には運ばず、結局海上輸送を行うことになった。その背景としては海運の発達があった。フビライのあと元朝皇帝の指導力は次第に衰え、皇統の争いも絶えない中、権臣の台頭もあって、元朝の力は徐々に弱まっていった。元朝の中国における後継王朝は明であるが、モンゴル帝国全体としてみると、西方でサマルカンドを都としたティムール帝国があり、新興の明にとって強敵であった。しかし



ティムールの急死によって、当面その脅威は去った。

明の洪武帝の第四王子朱棣(テイ)は、始め初代皇帝洪武帝の王子の一人として、モンゴル勢力の反攻に備え北辺を守る軍を任されていた。彼が拠点としたのは、かつての元の大都であった。ここは明代になってから  と呼ばれていた。彼はその任地の古くからの呼称にちなんで  王と呼ばれた。彼をはじめ北辺に配備された幾人かの王子たちは塞王と総称された。塞王の下には明国内の他の地域に配置された諸王とは比べものにならないほどの兵力と、それを維持するための物資が供給されていた。洪武帝が没し、その孫(後に建文帝と呼ばれる)が帝位を継ぐと、塞王たちが中央政府に反抗して起ち上がった。4年に及ぶ内戦の結果、反乱側が勝利を得て、 王が帝位に即いた。彼はその在位中<sup>(b)</sup>に用いた年号によって永楽帝と呼ばれる。永楽帝は  を改造した後、帝国の都をここに遷した。新しい都は北京と呼ばれるようになり、それに対して明初からの都はいわば副都として南京と呼ばれるようになる。当時の明の支配領域から見て、北京は北に偏っていたと言えるが、永楽帝にとっては若いときからのなじみの地であった。彼はここを起点として数度にわたり漠北遠征をおこなった。彼の遠征はモンゴル勢力に対する防衛にとどまらず、モンゴル地方をも含めた東アジアの広い領域での覇権を目指す構想に基づいていたと言われるが、そのような観点から見ると、北京は北に偏っているというよりも、むしろ要の位置にあったと言えよう。これは規模は異なるとはいえ、フビライの構想の裏返しと見ることが出来る。<sup>(i)</sup> 遷都の結果漕運の重要性が増したが、倭寇の害を避けるため、海上輸送を断念し、大運河の修復を急ぎ、この大運河経由の漕運がそのち清の末期近くまで続けられた。鄭和は永楽帝の奪権の際にも活躍した功臣であるが、彼のいわゆる南海遠征は永楽帝の分身として行われたと言えよう。これも元代に盛んであった西方との海上交易路<sup>(k)</sup>を明の主導のもとで復活させようとする努力の表れと見ることが出来る。

問1 文中の空欄  ～  に入るべき適切な語を漢字で正確に記せ。

問2 下線部(a)について、カラコルムが建設されたのはつぎのどの皇帝の時か。

正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ(以下、選択肢問題については同様)。

ア チンギス=ハン

イ オゴタイ=ハン

ウ グユク=ハン

エ モンケ=ハン

問3 下線部(b)について、その年は西暦何年か。つぎのうちより正しいもの一つを選び、マークせよ。

ア 1206年

イ 1234年

ウ 1260年

エ 1271年

問4 下線部(c)について、これらの汗国のうち、最も早く消滅したのはどれか。

正しいもの一つを選び、マークせよ。

ア オゴタイ=ハン国

イ チャガタイ=ハン国

ウ キプチャク=ハン国

エ イル=ハン国

問5 下線部(d)について、杭州の南宋治下の名称は何か。

問6 下線部(e)について、唐代より発展し、元明時代に東西交易で栄えた福建南部の港市はどこか。

問7 下線部(f)について、権臣の多くはモンゴル族ではない中央アジア、西アジア出身の者であった。これらは元朝支配の中で何と呼ばれたか。

問8 下線部(g)について、この地を中心都市の一つとして栄え、チンギス=ハンによって滅ぼされた王朝はつぎのどれか。正しいもの一つを選び、マークせよ。

ア クシャーナ朝

イ カラ=ハン朝

ウ ホラズム朝

エ 西遼

問9 下線部(h)について、在位中一つの年号だけを用いる制度を何と言うか。

問10 下線部(i)について、のち、19世紀に太平天国がここを都とした。そのときの呼称はなにか。正しいもの一つを選び、マークせよ。

ア 建業                      イ 建康                      ウ 金陵                      エ 天京

問11 下線部(k)について、元明時代を通じて西方との海上交易の要地となったインド西南岸の港はどこか。

問12 下線部(j)について、永楽帝の構想がフビライの構想の裏返しであるとはどういうことか。40字以内で説明せよ(句読点も1字に数える)。